

## 研究ノート

## ストリートピアノを通じた「つながり」生成の可能性への検討

## A Study on the Possibility of Generating “Connection” through Street Piano

藤田 絵理子

Eriko Fujita

和歌山大学大学院観光学研究科博士後期課程

キーワード：ストリートピアノ、つながり、愛着のあるコミュニティ、「観光的居場所」

Key Words：Street piano, Connection, Attachment for community, “Position as tourist”

## Abstract：

The role of street pianos in promoting connections between people and the local community, helping to create a community with affection, and serving as a “Position as tourist” named by the author was examined from the NHK TV program and the case of Kobe City. As a result, we suggested the possibility and development potential that the street piano could activate communication, create flexible connections, and become a “Position as tourist” based on pleasure, empathy, and a sense of security.

## I. はじめに

## 1. ストリートピアノに注目する現状背景と研究の問い

ストリートピアノは、2008年3月、イギリス、バーミンガムのストリート・ピアノプロジェクトから世界中に広がり、日本では、2011年、鹿児島一番街商店街で食と文化の情報発信交流拠点のシンボルとして初めて設置された。その後「だれでもピアノ」サイトによると10年以上経過した2023年9月末には、674台のピアノが設置されている。

本研究では、コロナパンデミックが継続するなかでも、ストリートピアノが活用されていることに注目し、ピアノという「もの」を通してピアノが置かれている「場所」がピアノを弾く「こと」にどのような影響を与えているのか、演奏者や聴衆という「ひと」との交流を促しているのか、演奏する「こと」を通じて演奏者自身の人間性を回復させ、人生を豊かにしているのではないかと筆者の問いを探究することを試みた。

さらに、ピアノの設置場所が、地域において愛着あるランドマークとして活性化を供し、ピアノという「もの」を介し「ひと」と「ひと」との「つながり」を生成する可能性を検討した。そして出向くことで安心感を抱く場所となる「観光的居場所（筆者造語）」、つまりわざわざ訪ねる名所と、日常的に立ち寄る気軽さや居場所の両側面を持ち合わせる拠点として機能しているのではないかと仮説を立てた。

それらについて、先行関連文献調査、NHKTV番組調査、

TV番組で扱われた震災被災地である神戸市のストリートピアノ設置事例に注目し考察することを目的とする。

## II. 先行文献調査

先行研究文献調査を行い、ストリートピアノの独自性と特徴を整理した。

## 1. コミュニケーション誘発ツールとしての意義

ストリートピアノの設置数が急増しているが、日本における歴史は浅く、先行研究がかなり少ない状況にある。

希少な研究のうち、平林・亀井（2020）は「イギリス、バーミンガムの最初のストリートピアノでは、知らない人同士が一緒に演奏するだけでなく、このピアノをきっかけとして結婚するものまでいた。ストリートピアノはコミュニケーションを誘発させ、人と人を結びつけるツールとして機能している」と述べている。さらに「演奏者同士と聴衆者とのコミュニケーションは、直接のやりとりだけでなくSNSでもやりとりが行われている。演奏の瞬間だけではなく、その後の交流を誘発しており、ストリートピアノをきっかけとして仲間が増えた者もある。決して多いとは言えないがストリートピアノはコミュニケーションを誘発している」と結論している。

これらから、ストリートピアノが演奏者同士、演奏者と聴衆の「コミュニケーションを誘発させ、人と人を結び付けるツール

として機能している」し、ストリートピアノという媒体「もの」を通して、設置場所や地域における「ひと」と「ひと」とのつながりや交流を生じさせ、人間関係のきっかけを生成するのではないか、との本研究仮説との一致を見た。さらにストリートピアノが、地域資源、地域拠点となり得るのか、その役割に注目して関連先行研究調査を行った。

国民生活審議会の報告書(1969)によれば「コミュニティは、生活の場における人間性の回復」がテーマであり、人々の間に新しいつながりが必要であるとしている。具体的には「人々の心のつながりによって維持される自主的な集団こそが、コミュニティの姿であり、それが地域的なひろがりの範囲をも規定する」、「コミュニティは、地域の自主的責任体制に基づく主張の場となり、日常生活のより所となって、現代文明社会における人間性回復のとりでとしての機能を確立しなければならない」とある。

前述の平井・亀林は、設置ピアノの維持管理については、地域における自主的な運営がなされていることが多いため、音楽という非言語の共通ツールを用いた「地域の自主的責任体制に基づく人々の主張の場としての役割」に言及している。それらを合わせるなら、ストリートピアノは、演奏者や聴衆にとって地域における「日常生活のよりどころ」となり「人間性回復のとりでとしての機能」を果たす可能性を展望できる。

加えて、吉田(2006)は、地域社会の定義の一つに「共通感情の発生」を挙げている。ストリートピアノをめぐるのは、演奏者と聴衆の間に音楽を介する感動など、感情共有体験が引き起こされる。そのためストリートピアノは、地域における共通感情の発生場として、地域社会での存在役割が期待される。

山本(2020)は、「音楽の特性として人びとの距離感を縮める効用、地域に対する愛着や帰属意識を高める、他人との積極的な関わりを好まない層が、音楽をすることを通してコミュニティに関わる事ができる」と音楽とコミュニティの関連を述べている。「幼い子どもが主旋律を演奏していると、見ず知らずのご婦人が連弾する音楽が人とひととを結びつけること」、「音楽の力が、地域の愛着を高めピアノを巡ってコミュニティ参画が可能になること、ピアノ演奏を通して見ず知らずの年齢層の異なる人々を偶発的に結び付ける力が生じた」ことに言及している。さらに山本は演奏者の特徴として「女性や10代が約4割と多く、イベントを知ったきっかけは通りがかりが約半数であり、ストリートピアノを設置したことで楽しい、居心地が良い等、音楽によるまちづくりの効果、音楽が人やまちに与える影響は極めて大きい。ピアノを1台置くことで多くの人たちが共感や関わり合いを持ち、地域住民が音楽のある場を求め、体験した楽しさや人とのつながりが地域への愛着に結び付く」とまとめている。

このことからストリートピアノと地域コミュニティとの関連を考察する際「若い世代の地域への愛着」が、キーワードとなる。

若者が地域への愛着を増やす手立てとして音楽によるまちづくりは親しみやすく理解しやすい。山本は続いて「行政は公共空間における自由主導のルールによる居心地の良い場づくりを進めていくべき」と述べ、ピアノの演奏を通じた「共感、関わり、楽しさ」が注目できる。

若者にとってストリートピアノを介した音楽的效果や演奏を通じたオリジナル体験や交流は、地域への愛着を促進する契機、居心地の良い場づくりとなる可能性がある。

西野(2017)によると「人とひととのつながりとは、対面的・直接的接触のみならず、視線・動線の交差や気配・存在の知覚のような非体面的、間接的接触をも包含する。住民への働きかけは、偶発的接触である日常生活を通じた空間依存的な出会いが重要で『弱い』関係性を意図的に生み出す取り組みが重要なのである。弱い絆こそ集団同士の橋渡しをすることが多く重要な役割を担う。ゆるやかなつながりの重要性は、地域生活におけるセーフティネットになりうる」と述べている。ストリートピアノは、対面的・直接的接触だけでなく、聴衆や通行人としての関わりなど非対面・間接的接触の両側面が可能である。それゆえ「偶発的で、弱い・ゆるやかな関係性」を取り結ぶ橋渡しのツールとして、つながりを生成する可能性がある。

先行研究より、ストリートピアノという「もの」が、人と人を結び付けるコミュニケーション誘発の場、日常生活のよりどころ、共通の感動体験が生じる場として地域コミュニティの構成要素となり、若い世代にも魅力的で地域への愛着を高める体験的な場となる可能性や「ひと」と「ひと」との「弱い・ゆるやかなつながり」を演奏する「こと」を通じて意図的に生成する場の発展性が示唆された。

## 2. サードプレイスとしての可能性

片岡(2019)は、サードプレイスを「家庭でも職場でもない第3のインフォーマルな公共生活の場、とびきり居心地のよい場所」、「交流型と、人を気にせず居心地よく過ごすマイブレイス型に区分される」としている。

ストリートピアノは、居心地のよいお気に入りの場所であり、人との交流を生じさせつつも自分独自の場所となり得るため、サードプレイスの条件に適合と考える。

実例としてストリートピアノを設置している正光寺(東京都北区)では、「ピアノ演奏を通じて、多世代交流型コミュニティ(世代を超えた交流ができるコミュニティ)が形成されている」という。

## 3. 文献・事例からの考察

本研究においては、ストリートピアノについて先行研究から、地域コミュニティにおける存在意義という側面から考察を試みた。その結果「弱い・ゆるやかなつながり」を生じさせるきっかけとして、ピアノが地域の資産となり発展性に寄与する可能

性が照合できた。また音楽的效果に関連し、多世代にとっての親しみやすさや若い世代にも受け入れ易く、気軽に偶然立ち寄ることができる「弱い・ゆるやかなつながり」を生じる地域資源として、ストリートピアノが地域との愛着を形成するのきっかけとなる可能性も明示された。今後もストリートピアノの存在意義を多様な視点から切り取ることが、新たな研究デザインへのチャレンジとなり得る。

### Ⅲ. 調査概要

本研究では、ストリートピアノの実態を把握する手段として2つを取り挙げた。第一はNHKのストリートピアノに関連する4番組の視聴を通して分析を行い、次に神戸市観光局の協力により、ストリートピアノについて提供された資料による事例から考察を行った。

#### 1. ストリートピアノ TV 番組の内容調査

##### (1) 調査方法

NHK が制作した駅ピアノ、空港ピアノ、街角ピアノ（神戸、京都、仙台、渋谷）番組を視聴し、内容を分析する。

以下は番組についての情報である。

番組所要時間：各 45 分。

番組内演奏者数：19 人～ 25 人

番組名：

1. 駅ピアノ「神戸 西神中央駅」（シリーズ初国内編）  
初回放送日 2020 年 1 月 23 日
2. 駅ピアノ「京都」  
初回放送日 2021 年 3 月 8 日
3. 空港ピアノ「仙台」  
初回放送日 2022 年 1 月 3 日
4. 街角ピアノ「渋谷」  
初回放送日 2022 年 7 月 27 日

##### (2) 調査対象

NHK 駅ピアノシリーズは空港ピアノなどを含め、2023 年 9 月では 335 番組ある。

本研究では、番組内のピアノ演奏者の語りを調査対象とし特徴的な 4 か所を選んだ。選定理由は設置場所の特徴の違いである。自然災害の被災地である駅、空港ピアノとして神戸と仙台、日本の有名観光地の駅ピアノとして京都、首都に近い交通要所の街角ピアノとして渋谷とした。

##### (3) 分析方法

番組を視聴し演奏者の会話を逐語記録しキーワードに注目した。演奏者が、どんな時に何を求め、そこに来て何を求めているのかに注目した結果、内容の類似性に基づき、4つの項目を抽出した。それらを独自に命名し、回答率を算定した。4つの分類の項目名を以下に述べる。

①演奏者にとってピアノの意義やピアノへの思いについて語られたものをまとめて「ピアノの意義」と命名した。②ピアノと演奏者の人生の関連についての語りを「人生との関わり」と命名した。③ピアノを通じて生じたと感じている人とのつながりについては「人のつながり」と名付けた。④ピアノの設置場所

への語り、場所への思いについては「場の意味」と命名した。それらを Fig.1 にまとめた。

### 2. 結果

演奏者について、各所での属性（男女比、プロ演奏者の人数、場所への訪問の目的、年代、演奏者の多様な特徴、つながりのきっかけなど）を分類、比較した。

#### (1) 演奏者男女比

全体合計 86 人中の男女比（人）：（男：女、50：36）

神戸：合計 25 人（男：女、13：12）

京都：合計 23 人（男：女、13：10）

仙台：合計 19 人（男：女、9：10）

渋谷：合計 19 人（男：女、15：4）

#### (2) プロ演奏者の人数（人）

神戸：0、京都：0、仙台：4、渋谷：2

#### (3) 演奏場所への訪問目的

意図的訪問、他目的あり途中経過利用、不明、全体合計 86 人中（人）：（意図的 38、途中利用 30、不明 18）

神戸：合計 25 人（意図的 9、途中 8、不明 8）、

京都：合計 23 人（意図的 12、途中 6、不明 5）、

仙台：合計 19 人（意図的 16、途中 3）、

渋谷：合計 19 人（意図的 4、途中 13、不明 2）

#### (4) 演奏者年代

小学校 1 年生から大学生、80 代まで幅広い。神戸、京都では学齢期の利用率が高く（通勤、修学旅行中など）仙台は 40 代が多く、渋谷では 20 代の利用率が高かった。

#### (5) 演奏者の多様な背景

車椅子、目が不自由、左手に障害、アメリカ人、オーストラリア出身の日系三世、アフリカマラウィ共和国出身など多様な背景がある。

#### (6) つながりのきっかけ・コミュニケーションの誘発

演奏者の関係性は、親子 3 組、カップル 3 組（うち 1 組は見学）、友人 4 組、偶然のセッション 2 組であった。

(7) ピアノについて演奏者が語る 4 項目について、4 か所合計回答率は、①演奏者にとっての「ピアノの意義」への回答については、演奏する楽しみ、聴いてもらう喜び、好きでずっと続けたい、元気をもらう、励まし、幸せ、大好き、気分をリフレッシュする、自分だけの世界、満足などの回答があり 54.7% が言及した。②ピアノと演奏者の人生との関連、「人生との関わり」への回答は、気持ちや和らぐ、癒される、特別な思い出、成長するきっかけ、未来が楽しい、辛い時があっても絶対未来がある、感謝の気持ち、将来、ピアノバーを作る、親孝行などで、全体の 51.2% が言及した。③ピアノを通じて生じたと感じている「つながり」への回答は、リクエスト、一緒に歌う、一体感が楽しい、地元の温かさ、故郷、支えられている感じがすごいなどがあり全体の 61.6% が言及した。④ピアノの設置場所への語り、場



場所	人数	(1)ピアノの意義		(2)人生との関わり		(3)つながり		(4)場の意義		詳細
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
神戸	25	13	52	5	20	12	48	6	24	①演奏する楽しみ、聴いてもらう喜び ②気持ちが和らぐ、癒される ③リクエスト、一緒に歌う ④おしゃれな街、自慢、電車の待ち時間に弾く
京都	23	15	65	14	62	11	48	8	35	①好きでずっと続けたい、元気をもらう ②特別な思い出、成長するきっかけ、未来が楽しい ③一体感が楽しい ④最高の音楽環境
仙台	19	8	42	13	68	16	84	9	47	①励まし、幸せ、大好き ②辛い時があっても絶対未来がある、感謝の気持ち ③地元の温かさ、故郷 ④復興ピアノと人生が重なる
渋谷	19	11	53	12	63	14	74	3	16	①気分をリフレッシュ、自分だけの世界、満足 ②将来、ピアノバーを作る、親孝行 ③支えられている感じがすごい ④街中で弾けるって素晴らしい
合計	86	47	54.7	44	51.2	53	61.6	26	30.2	

Fig.1 NHK 空港ピアノ・街ピアノ番組演奏者による回答分類

所への思い「場の意味」について、おしゃれな街、自慢、電車の待ち時間に弾く、最高の音楽環境、復興ピアノと人生が重なる、街中で弾けるって素晴らしいなどで全体の30.2%が言及した。

### 3. 考察

- (1) 演奏者の男女比は、男性の利用率が58%と高い。男女共同参画調査(2019)の地域活動への参加では、男性の参加率が低いとされている。大友(2018)も男性は、地域社会との関係が希薄であり、結果として社会参加の困難さを指摘している。この面で、ストリートピアノは利用の手軽さ、「弱い・ゆるやかなつながり」を特徴とすることから、今後、負担の少ない社会参加活動の選択肢の一つとなる可能性も窺えた。
- (2) プロの演奏者の訪問比より、プロの演奏家が多い場所は仙台であった。通りすがりの演奏ではなく演奏する目的で、訪問時期選定し、計画的に訪ねていることが予想された。演奏者は大震災被災地であることの影響から、震災後トラウマを抱えながらも音楽の力への言及が多い。人生や出来事「こと」に、音楽やピアノ「もの」を介在させることで、思い出、癒し、祈り(鎮魂)の場、居場所としてストリートピアノが機能しているといえる。
- (3) 場所への訪問目的については、設置場所の効果、影響による演奏者の特徴が関連している。たとえば設置場所が、交通の要所である場合、渋谷、京都、神戸では、ピアノ設置場所を意図的に訪ねなくても、途中、用事のついでにピアノを利用できる気楽さがあった。実際、仕事帰りや生活

圏内における用事のついでに利用する場面が多く、渋谷では途中利用率が68%であった。反対に仙台では、震災追悼の意思や目的でわざわざ意図的に訪ねる割合が84%と高かった。

わざわざ意図をもっての利用であっても、生活圏内での途中利用であってもピアノ設置演奏場所が楽しみの場所となっており、観光的要素を有していると仮定できる。つまりストリートピアノが置かれている場所をわざわざ訪ねる意味、場の楽しさ、待ち合わせ場所として意図的に選ぶことで相手が喜ぶなどの意味などを含め、事例から筆者が仮定した「観光的居場所」となり得る可能性が示唆された。

- (4) 演奏者の年齢の多様さからは、ストリートピアノは「みんなのピアノ」と名付けられることも多く、年齢に関わりなく利用され、かていん(2021)の述べる「公益性」を伴う地域拠点としての展望が窺えた。
- (5) 演奏者の多様な背景に注目すると、日本語が通じなくても、ピアノの音色、音楽という世界共通の非言語コミュニケーションを交わせる場の存在意義が大きい。利用者には、外国人、障害のある方など多様な背景があるなか、ピアノに向き合い、演奏し音楽を楽しむという共有体験が可能となっている。
- (6) 人とのつながりやコミュニケーションの誘発が可能である。つまり偶然のセッション、出会いの機能を有している。ピアノという「もの」を通じての「ひと」との出会い、人間関係の広がり、深まり、支え合いの創出の契機となる「観光的居場所」の要素を包含している。演奏の際には、先の「偶発的接触」ともいうべき、聴衆の有無、拍手喝采の有無など、毎回予想できない状況で生じる。このような演奏者の意志

だけでは、選択できない状況、偶然性の喜びを得られる場所としての魅力も大きい。一期一会の出会いや縁、つながりを実感できる「場」の力がある。サプライズ効果が高いことも、日常の拠点にありながら、非日常的な体験ができる場所という意味合いで「観光的居場所」となり、記憶に残る体験につながっている。

#### 4. 類似性のある4項目についての考察

##### (1) 「ピアノの意義」

Fig.1より、ストリートピアノ演奏者の半数以上（54.7%）の人が、ピアノへの意義を高く評価していた。具体的には、演奏する楽しみ、聴いてもらう喜び、元気をもらう、励まし、幸せ、気分をリフレッシュするなどがあつた。

特に、意図的にピアノ演奏に場を訪れた割合の高い京都で、この回答の割合が65%と高い。このことからピアノが好きで、意図的に演奏目的をもって場を訪ね、演奏することにより、相乗効果としてピアノへの意義が高まることが示唆された。演奏スタイルを自由に選択し、操作できる利用の簡便さ、ピアノとの距離感（ピアノ演奏が可能な日程や時間帯ならいつ弾いても良い）を自ら調整できることがな一層、演奏者の主体性も尊重され、ストリートピアノの魅力を高めていると考えられる。

##### (2) 「人生との関わり」

被災体験からの立ち直りなど、ピアノと自身の人生がリンクすることでの共感・励まし・激励となっている語りが目立った。ピアノに自身の人生を投影することで、ピアノが震災から再生したように、自身の人生の回復の力に影響を与えた心理的な意味が大きい。特に、仙台国際空港のピアノは、宮城県七里ヶ浜町で津波被災しながら甦った奇跡のグランドピアノ、「復興空港ピアノ」として期間限定で震災の時期に合わせて設置された。その目的は東日本大震災や音楽の力について考えるきっかけを作るとともに、心の寄り添いながら震災の記憶を伝え、傷だらけの見た目から、西城秀樹の「傷だらけのローラ」にちなみ「ローラ」の愛称で呼ばれているという。このことから愛称があり特別な「愛着を持つ存在」であるこのピアノと、毎年3月に定期的に対峙することで、被災やその後の人生を振り返るきっかけとなる。震災の傷が残った姿のままであることから、「もの」でありながら、自分を投影できる存在、苦しい思いを共感できる戦友のような存在、震災を風化させず静かに演奏者や聴衆に寄り添う存在となっている。

##### (3) 「つながり」

いつも同じ場所にあるピアノの存在が、安心感を与えている。さらにピアノを介して出会った人々にも、音楽を通じての「共感」や仲間意識、演奏技術などで敬意を抱きやすい。平林・亀井（2020）による「ストリートピアノ演奏後、演奏者や聴衆と話をした経験への問いに、28人中3人が、経験があると回答し、SNSでのやり取り、直接、演奏や音楽の話をする、連絡先を交換しピアノをきっかけとして仲間が増えた」と報告した実例と

関連する。

##### (4) 「場の意味」

交通の要所に設置されている場合は、待ち合わせ場所、待ち時間の有効活用、演奏を通して自己有用感や自己実現の力を発揮できる場、仕事や買い物ついでに生活のルーティーンなど、様々な活動の一環として利用される。生活拠点に手軽の音楽を楽しめる環境が加わることにより、生活の質の向上、ピアノのある街への愛着が増し、地域愛、郷土への誇りにつながる。仙台ではピアノを通じて「つながり」、「場の意味」を回答した割合が顕著に高かったことから、特別な交流が生成される機会と、被災地のランドマークとして場の意義の大きさが、演奏者に刻まれていることが示唆された。

#### 5. 神戸市ストリートピアノの事例調査研究

##### (1) 調査方法

ストリートピアノの設置や関連活動が盛んで、NHK ストリートピアノロケ地、神戸市の事例に着目した。コロナ禍で現地調査の困難もあり、ストリートピアノ設置担当課、神戸市役所・文化スポーツ局文化交流課より研究協力同意と資料提供を得、加えて神戸のストリートピアノに関連した記事、ホームページなどを調査、考察した。

##### (2) 調査対象

神戸市役所・文化スポーツ局文化交流課から本研究のために提供された資料、神戸のストリートピアノに関連したインターネットの記事を調査、分析する。

##### (3) 分析方法

神戸市がこれまでストリートピアノを設置した経緯、現在の設置状況、設置場所、ピアノをめぐるイベントを整理した。神戸市が数年間でストリートピアノを多数設置した経緯と、新たな文化を街全体で創生している現状をピアノという「もの」、演奏という「こと」、演奏に関わる「ひと」の視点から分析した。

#### 6. 結果

神戸市文化交流課からの提供情報資料を筆者がまとめた。ストリートピアノの設置背景や経緯、神戸のまちと、ピアノとの関連、ピアノ関連イベントの取組（Fig.2）、設置場所やピアノの由来（参考資料 Fig.4）に分類して整理した。以下は神戸市資料抜粋により整理した内容である。

##### (1) 神戸市がストリートピアノを設置した背景と現状

海外や国内でのストリートピアノの取組から、音楽と親和性のある神戸のまちにストリートピアノが馴染むのではないかと、震災から復興の際、芸術・文化を大切にしてきた経緯と、市民が芸術に触れる機会を増やしていく取組を重視する施策とが相まって設置を後押しした。

当初、神戸市市職員有志の若手チーム「『みんなのピアノ』を考える会」が発足し、ストリートピアノに関連した基本的な行動方針、他都市の事例、設置候補場所、ピアノを置いた

後の活用方法や発信方法について意見交換が行われ、活動が推進された。2019年1月末、デュオこうべで開催した音楽イベントで二週間、試験的にストリートピアノを設置し大変好評だったため、支援と共感により取組の輪を広げた。文化交流課が全体の統括を担っているが、市役所内の部署で所管しているピアノや民間が管理しているピアノもある。2022年9月のストリートピアノ設置数は33台であり、当初目標にしていた30台を突破している。活動の活性化に向けた取組として、地下鉄海岸線の全駅10駅にも設置が完了し、2022年6月に全駅設置記念イベントを開催した。より広く市民に知ってもらい、気軽にストリートピアノを弾ける環境をつくる目標が達成されている。

## (2) 神戸市のストリートピアノを巡る主な取組について

神戸市文化交流課によると、神戸のまちにとってのピアノの存在については、気軽にストリートピアノを弾ける環境をつくり、まちの賑わいづくりに寄与する存在になることを期待している。またコロナ禍後には、セッションができる場所を増やす検討や、ストリートピアノが暮らしに溶け込むアートとして、年齢や障がいの有無、経済的状况に関わらず、子どもから大人まで市民一人ひとりが生涯にわたって文化芸術に触れ、親しみ、学び続けられるよう文化振興の面からも取組を行う予定だという。

それらの一環として実施された活動を以下にまとめた。

- ① 地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置記念イベント
  - ② ピアノ体験教室
  - ③ 「花奏 KOBE」ラッピングピアノ (Fig.3 写真)
  - ④ 神戸産の花の展示「街の彩 (いろどり) ガーデン」
- これら4イベントの内容をFig.2にまとめた。

## 7. 神戸市によるストリートピアノの取組状況

神戸市は、音楽と親和性のあるまちづくりの一環として、さらに復興後に芸術・文化を大切にしてきた取組と相まってストリートピアノに注目し、若手有志メンバーによる活動推進、試験設置を契機として取組が広がった。ピアノの設置段階や各種イベント開催において、民間と自治体の関連機関の連携、地域の有志の協力でストリートピアノを盛り上げている。さらに観光や地域の特産品（神戸タータン、菓子、花など）と結び付け地域資源として提供する仕組みを作っている。また持続可能な社会の仕組みづくりの一環として、地域の子どもたちも楽しめるイベントを企画するなど年間を通じてピアノを中心とした活発な活動がある。例えば、子ども向けピアノ教室実施時には、送迎できない保護者の代わりに、長田区連合婦人会が子どもの送迎を担当するなど地域連携力も強化された。子どもたちもストリートピアノという公共の場でのレッスンにも関わらず、練習や指導に集中し、楽しんだという。

神戸市の取組は、地域コミュニティを巻き込んだ拠点、居場所、ランドマークとしてストリートピアノが機能し、次世代の子どもへの音楽的体験提供の場となっており、地域力を結集し、つながりを促進したと言える。

## 8. 神戸市のストリートピアノの設置状況

神戸市文化交流課からの情報と、筆者が神戸市ストリートピアノホームページから設置場所、関連イベント、ピアノの特徴、寄贈元について確認できる箇所を調査した。結果を、参考資料として文末に示している (Fig.4)。

調査時期の2022年9月には、ストリートピアノ設置数は33台であり、神戸市内全9区すべてに設置が行われていた。内訳は、東灘区1台、灘区2台、中央区13台、兵庫区5

イベント名	対応協力連携課	開催時期	参加者 / 関連する出来事	特徴
①地下鉄海岸線 ストリートピアノ 全駅設置記念イベント	・文化スポーツ局文化交流課 ・交通局駅務統括所 ・交通局営業推進課	令和4年3月28日	・Instagram ハッシュタグ キャンペーン 55 名 ・投稿 138 件 ・スタンプラリー 246 名	・全駅 (10 駅) ストリートピアノのある全国初路線実現 ・神戸タータンの装飾 (6 駅) ・ストリートピアノ HP リニューアル ・参加者に神戸の特産品のプレゼント
②ピアノ体験教室	・文化スポーツ局文化交流課 ・神戸クラシック協会 ・長田文化協議会 ・長田区連合婦人会	令和4年7～8月 全4日間	・これまでにピアノを習ったことがない小学1年～中学3年生	・最終回は演奏会実施 ・大橋地下道 (新長田) のストリートピアノ使用 ・神戸クラシック協会所属 (プロ演奏家) ピアノ講師 ・レッスン代無料、楽譜代のみ負担
③「花奏 KOBE」 ラッピングピアノ	・文化スポーツ局文化交流課 ・北神区役所まちづくり課 ・(株)関西都市居住サービス	令和3年11月16日	・令和3年3月、187件の応募の中から「花奏 (かなで) KOBE」という愛称が決まった	・エコール・リラに設置中のストリートピアノ 「花奏 (かなで) KOBE」ラッピングお披露目コンサート開催
④花の展示 「街の彩ガーデン」	・経済観光局農水産課 ・北神区役所まちづくり課	令和4年6月23日	・ピアノの周囲を神戸の花で装飾することで地場産業への啓発を行う	・「ストリートピアノ「花奏 (かなで) KOBE」を神戸の花で飾る ・街なかで四季折々の神戸産の花の展示「街の彩 (いろどり) ガーデン」を開催

Fig.2. 神戸市のストリートピアノイベントの取組





Fig3.「花奏 KOBE」ラッピングピアノ (写真提供：神戸市)

台、北区3台、長田区5台、須磨区1台、垂水区、1台、西区2台である。そのうち空港、港、駅など交通の要所にあるものが16台、公共施設（コンサートホール）に設置されているものが1台、商業施設にあるもの16台であり、交通の要所と商業施設の設置が約半数を占めた。

さらに交通の要所での設置の16台のうち、空港はイトインスペース、港は待合ホールに設置されており、駅では改札外が6台、改札内が8台であった。空港、港ともに自由に入出りできる設置場所であり、改札外とみなすなら、交通の要所に設置されているが交通機関を使用せずともピアノだけの利用が可能、公共性が高いものが16台のうち8台で半数を占める。また改札内設置も半数であることから、交通機関利用者にとって特別の専用ピアノであるメリットや、利便性の高さが考慮されている。

加えて先調査のストリートピアノイベント（①から④）に関連しているピアノは12台（36%）であった。

ピアノの種類については、グランドピアノが9台、アップライトピアノが21台、電子ピアノが3台である。色や特徴では、グランドピアノのうち、黒が8台、透明が1台であり、黒色のうちスタンウェイ社製が1台、フルコンサートグランドピアノ（Fig.3、花奏 KOBE）が1台であった。アップライトピアノも黒が17台、茶色が3台、ホワイトページが1台である。

アップライトピアノのうち、神戸市の景色のイラスト入りや、神戸タータンを床やピアノ前面に装飾し、地元特産品をアピールしているものもある。

ピアノの由来をたどると、地域のセンターや幼稚園からの寄贈によるものが19台（58%）であった。

## 9. 考察

神戸市の場合、交通の要所と商業施設の設置数が、ほぼ同じであったことから、ストリートピアノの設置場所として、人の往来が多い場所が選定条件になることが推察された。

交通の要所に設置されているピアノの半数は、公共性の高さが優先され、誰でも自由に入出りして演奏できるスペースに意図的に設置されていたことから、神戸市でストリートピアノが当初「みんなのピアノ」となる目的のもと推進されたことと一致

している。

さらに一方では、改札内設置も半数であったため、交通機関の利用者のみが演奏でき、演奏者の近くで聴衆になるメリット、付加価値が与えられている。そのように利用者を限定することで、電車は利用しないが駅構内のピアノ演奏のために入場券購入が促進されるなどの利用拡大も見込まれる。

このように普段から使用する日常生活圏内にある場所が、ピアノという「もの」の設置を通じて、演奏活動という「こと」が生じ、演奏者や聴衆という「ひと」をつなぐことにより、特別な居場所に変化するきっかけとなることを期待したものであると言える。

神戸市は、ストリートピアノに関連させたイベントを企画により、鉄道利用者の集客効果、地域の特産品（菓子、タータンチェック、花など）のアピール、子ども達への演奏技術の伝授（ピアノ教室）、シンボル拠点の強化（花奏 KOBE）、愛称募集などによる地域への愛着増強など、持続可能な地域資源としての活用を盛んに行っていた。

加えて寄贈によるピアノ設置が、約6割であることから、地域に馴染みや愛着のある高価なピアノが生まれ変わって再活用されることで、地域資産としての価値を高めている。

寄贈数が多い理由の一つとして、朝日新聞デジタル（2021）は「阪神淡路大震災で全壊し、閉園した幼稚園のピアノが近くの小学校で活用されずに保管されたままだったが、ストリートピアノの活動をきっかけに再利用された」ことを記述している。さらに愛着あるピアノとして、三井住友銀行神戸営業所のスタンウェイ製グランドピアノを挙げている。コロナ禍で演奏休止と再開を繰り返したが、演奏者は「音の響きが良く、鍵盤のタッチもなじみやすい。神戸市が街全体で芸術を大切にしているのがよく分かる」、「音の美しさが全く違う。コロナ禍で失われた人と人とのコミュニケーションのきっかけになると思う」と感想を寄せた。ピアノの上に置かれたノートには「震災、いろいろ乗り越えてきたけれど、この世は悲しいことだらけ。仕事の帰り、日々の涙をこらえてスタンウェイに触れて心の傷、癒します。頑張りましょう」、「皆の大切なピアノがいつまでもここにありますように」と様々なメッセージが書かれている。

これらより、ピアノという「もの」の設置場所を拠点とし、演奏ノートというツールを介して演奏活動という「こと」が豊かになり、コロナ禍という妨げがあっても演奏者同士が「ひと」と「ひと」との交流やつながりを生成する可能性が窺えた。神戸市の事例より、ストリートピアノが、人々に愛着を持たれる地域コミュニティ拠点、癒しや励ましの場となっていることが推察された。

## IV. おわりに

### 1. ストリートピアノの意義についての再確認

足立（2010）によれば「地域性重視の個性創造（センチメンタル価値）は、地域性に基づく価値・街への愛着」と関連すると述べており、ストリートピアノは設置場所、設置に至る

までの人々の熱意や愛着、設置後には演奏者、聴衆にとって場を通じた共通の思い出や交流などが「センチメンタル価値」を持つ資源となり得る。また谷口（2012）によると、観光が人々の意識にもたらす質的な効果として「地域愛着意識」の重要性に着目されており、ストリートピアノはその契機や起爆剤となる可能性が窺える。演奏者のかていん（2021）は、ストリートピアノのキーワードとして「開放性や公益性」を挙げている。それらも地域コミュニティの定義と重なりを持つ。西野（2017）が地域の「自主的でゆるやかなつながりの重要性はセーフティーネットとなり得る」との指摘から、ストリートピアノが各地域の拠点となり、安心できる居場所として集う人々に心の安全性を保障してきたといえる。

今後、サードプレイスとして、ストリートピアノの拠点役割も顕著になると予想される。音楽は、ユニバーサルデザインのシンボル（ランドマーク、拠点）となりえる。

老若男女、障害に関係なく、言葉が通じなくても音楽という共通言語を介するため障壁とはならない。ストリートピアノが持つ独自性、特異的な価値について、今後、地域拠点各所に設置されているストリートピアノが果たす個別の役割について、学術的に整理され意味が明らかにされることが、課題となるであろう。コロナ禍での分断の影響が継続する中、不安や生きづらさ解消の一打開策として調査し、ストリートピアノを中心としたコミュニティ拠点、「観光的居場所」となり得る真価や効果を問い続けたい。

実際に、ピアノの設置場所（場のエネルギー）では、聴衆（ギャラリーの応援）、演奏者（プレゼン力）の三者関係による新たな一期一会のエネルギーの創出、コラボが産まれている。活気のある固定の場所から、演奏文化が発信され、SNS ツールを通じて拡散されることは、新たな音楽文化の発信形態も創出している。本研究ではNHK 番組や神戸の事例を通じて、ストリートピアノの存在が多くの人々にとって「ピアノによる癒し」、「生きがい」、「つながり」、「街全体で芸術を大切にしている」、「仕事の帰りにピアノに触れられる（癒し・居場所）」、「皆の大切なピアノ（つながり・居場所）」と認識されていることを認めた。

加えて仮説とした、安心できる楽しい「観光的居場所」としての一端を確認できた。

調査に用いたTV 番組は、製作者の意図反映などの影響もあることを申し添えたい。また近年では、演奏者のマナーの悪さから、ピアノ設置を取りやめる事例も存在する。

そのため今後は、社会的な要因による変化や、関連する先行研究や分析の観点を増やすことで、ストリートピアノの「居場所」機能について、多角的に実証を深めることが課題となる。

研究に際し、忍耐強い温かさでご指導くださった辻本勝久先生、査読により丁寧にご指導くださった先生方に厚く感謝申し上げます。

## 参考資料

神戸ストリートピアノ／駅ピアノ 設置状況 (調査時期：2022 年 9 月)	
区	1, 設置場所 2, 関連イベント①～④ 3, ピアノの色、種類 4, 特徴や由来、寄贈元
東灘区	1, ジ・アンタンテ マーケットシーン 3, 黒、アップライトピアノ
灘区	2, 1, 灘区民ホール 3, 黒、電子ピアノ
	3, 1, メイン六甲 3, 茶色、電子ピアノ
中央区	4, 1, 神戸サウナ & スパ 3, 茶色、アップライトピアノ
	5, 1, 三井住友銀行神戸営業部 3, 黒、グランドピアノ 4, スタンウェイ社製
	6, 1, かもめりあ 3, 透明、グランドピアノ 4, ポートピアホテルより寄贈
	7, 1, 神戸空港 3, 茶色、アップライトピアノ 4, 神戸市立清風幼稚園より寄贈
	8, 1, ポートターミナル 神戸港 待合ホール 3, 黒、アップライトピアノ
	9, 1, デュオこうべ浜の手 デュオドーム 3, 黒、アップライトピアノ 4, 本山第三小学校より寄贈
	10, 1, JR新神戸駅 改札外、新幹線口付近 3, 黒、アップライトピアノ
	11, 1, 地下鉄西神・山手線 新神戸駅 改札外 3, 黒、アップライトピアノ
	12, 1, umie 1階東アトリウム 3, 黒、アップライトピアノ
	13, 1, 地下鉄海岸線 三宮・花時計前駅 改札内 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、アップライトピアノ、 4, 神戸の景色のイラスト入り 神戸 阪急より寄贈
	14, 1, 地下鉄海岸線 旧居留地・大丸前駅 改札外 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、グランドピアノ 4, 床に神戸タータン円形敷物、兵庫県私学会館より寄贈



中央区	15	1, 地下鉄海岸線 みなと元町駅 改札外 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、アップライト 4, 神戸タータン四角いタペストリー、すずかせ幼稚園より寄贈
	16	1, 地下鉄海岸線 ハーバーランド駅 改札内 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、アップライト 4, 神戸タータン四角いタペストリー、すずかせ幼稚園より寄贈
兵庫区	17	1, 地下鉄海岸線 御崎公園駅 改札外 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、アップライトピアノ
	18	1, 地下鉄海岸線 中央市場前駅 改札内 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 茶色、アップライト 4, 神戸文化ホールより寄贈
	19	1, 地下鉄海岸線 和田岬駅 改札内 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、グランドピアノ 4, 床に神戸タータン円形敷物、北須磨文化センターより寄贈
	20	1, メトロこうべ 中央広場 2, 黒、アップライト
	21	1, イオンモール神戸南 3, 黒、アップライト 4, 兵庫区役所、旧庁舎より寄贈
	22	1, 鈴蘭台駅前再開発ビル3階（すずらん広場） 3, 黒、アップライト 4, 木津幼稚園より寄贈
北区	23	1, エコール・リラ（岡場） 2, ②「花奏 KOBE」ラッピングピアノ設置 ④ 「神戸の花による街の彩ガーデン」 3, 黒、フルコンサートグランドピアノ 4, 五線紙、花のイラスト入り、床に赤い鍵盤デザイン円形敷物 神戸文化ホールより寄贈
	24	1, 谷上駅（ロッジ谷上内）改札内 3, 黒、電子ピアノ
長田区	25	1, 地下鉄海岸線 荻藻駅 改札外 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、アップライト 4, 神戸タータン四角いタペストリー、御崎幼稚園より寄贈

長田区	26	1, 地下鉄海岸線 駒ヶ林駅 改札外 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、アップライト 4, 神戸タータン四角いタペストリー、御崎幼稚園より寄贈
	27	1, 地下鉄海岸線 新長田駅 改札内 2, ①地下鉄海岸線ストリートピアノ全駅設置及び記念イベント 3, 黒、グランドピアノ 4, 「えんとつ町のプペル」のタペストリー
	28	1, 大橋地下道（新長田） 2, ②ピアノ体験教室実施場所 3, ホワイトページ、アップライト 4, 生田文化会館より寄贈
	29	1, アスタくにつか3番館2階 3, 黒、グランドピアノ 4, 神戸市立八多幼稚園より寄贈
須磨区	30	1, 名谷 須磨パティオ3番館2階 3, 黒、アップライトピアノ 4, 名谷あおぞら幼稚園より寄贈
垂水区	31	1, コーナン名谷店 3, 黒、アップライトピアノ 4, すずらん幼稚園より寄贈
西区	32	1, カナート西神戸店 3, 黒、グランドピアノ
	33	1, 地下鉄西神・山手線 西神中央駅 改札内 3, 黒、グランドピアノ 4, 名谷あおぞら幼稚園より寄贈

Fig.4. 神戸市のストリートピアノ設置場所、種類、由来

追記）2023年10月時点で、表内21. 兵庫区、イオンモールのピアノが撤去、新たに垂水区、レバンテ垂水2番館に黒のグランドピアノが設置され総数は同じく33台である。16. ハーバーランド駅は、黒からホワイトページのピアノに変更、28. 新長田は黒のアップライトピアノに変更している。

### 参考文献

- 足立基浩（2010）『シャッター通り再生計画－明日からはじめる活性化の極意』、ミネルヴァ書房。
- 平林靖教・亀谷義浩（2020）「ストリートピアノによる空間利用とコミュニケーションの誘発に関する研究」『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』（60）、261-264。
- 片岡亜紀子・石山恒貴（2019）「地域コミュニティにおけるサードプレイスの役割と効果」『地域イノベーション』9、73-86。
- かていんのコメント <https://note.com/880hz/n/n940933672dea>（最終閲覧日：2023年8月31日）。
- 国民生活審議会調査部会 コミュニティ問題小委員会（1969）「コミュニティ生活の場における人間性の回復－」 <https://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryuu/no.13/data/shiryuu/syakaifukushi/32.pdf>（最終閲覧日：2023年8月31日）。
- 神戸ストリートピアノ一覧 <https://Kobe-piano.jp>

- (最終閲覧日:2023 年 10 月 31 日).
- 森直由 (2021.11.4)「スタンウェイ社製ピアノが街かどで弾ける 宣言明け 神戸で再開」朝日新聞デジタル <https://www.asahi.com/articles/ASPC36SMGPBSPIHB015.html> (最終閲覧日:2023 年 8 月 31 日).
- 内閣府 (2019)「男女共同参画調査」.
- 西野桂子 (2017)「音楽を活用した地域コミュニティの構築に関する研究」, 京都橘大学大学院文化政策学研究科博士論文  
[https://www.tachibana-u.ac.jp/research\\_area/university\\_press/dissertation\\_thesis/pdf/ktu\\_dr\\_2018cpk14.pdf](https://www.tachibana-u.ac.jp/research_area/university_press/dissertation_thesis/pdf/ktu_dr_2018cpk14.pdf)  
(最終閲覧日:2023 年 8 月 31 日).
- 大友総・齋藤美華 (2018)「定年退職後の高齢男性の社会参加の要因についての文献検討」『山形県立保健医療研究』, 第 21 号, 11-19.
- 仙台空港のストリートピアノ [https://www.sendai-airport.co.jp/news/release\\_piano2022/](https://www.sendai-airport.co.jp/news/release_piano2022/)  
(最終閲覧日:2023 年 8 月 31 日).
- ストリートピアノ設置場所情報専門サイト「だれでもピアノ」  
<https://pianomitsuketa.com/>  
(最終閲覧日:2023 年 9 月 31 日)
- 谷口綾子・今井唯・原文宏・石田東生 (2012)「観光地における多様な主体の地域愛着の規定因に関する研究 - ニセコ・倶知安地域を事例として-」『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, 5, 551-562.  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/68/5/68\\_I\\_551/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/68/5/68_I_551/_pdf)  
(最終閲覧日:2023 年 8 月 31 日).
- 山本康太 (2020)「柏崎市における音楽によるまちづくりの可能性 ～ストリートピアノによる社会実験を通して～」 <https://www.jcrd.jp/seminar/a8a24c89540c22981c7bc91aa86768f65497f1e4.pdf>  
(最終閲覧日:2023 年 8 月 31 日).
- 読売新聞東京朝刊版 (2021 年 12 月 5 日)「ストリートピアノの魅力」.
- 吉田春生 (2006)『観光と地域社会』 ミネルヴァ書房.

受理日 2023 年 12 月 21 日